

調査4 景気が改善あるいは悪化している要因についての主な意見

《改善要因》

- 国の予算執行が順調。(製造業)
- 新規設備導入。(製造業)
- 他社製品の代替需要が増加している。(製造業)
- 設備投資需要の持ち直し等により底堅く推移している。(製造業)
- オリンピックの関係でビジネスホテル等の建築が盛んである。(建設業)
- 助成金が得られた。(サービス業)
- 新規顧客の集客に成果が出ている。(サービス業)
- 信頼を得られる誠実な営業(サービス業)
- 自動車業界は、各社が自動ブレーキなどの安全運転車の投入を促進しており、盛り上がりを見せている。(小売業)
- 営業力強化(卸売業)
- 取引先のシフト変更。(小売業)

《悪化要因》

- 大手企業の研究開発費が圧縮されている。(製造業)
- 取引先の不況。(製造業)
- 新規設計開発の案件は多いものの受注に至るケースは低い。景気の先行き不透明感により、企業の設備投資に慎重になっていると感じる。(製造業)
- 建設業及びサービス技術者の人手不足により新たな手が打ちにくい。(建設業)
- ハウスメーカーの工事単価の下落。(建設業)
- 住宅リフォームの業界は横ばい。他業種からの参入により競争激化。(建設業)
- 賃貸住宅の供給過剰。物件の老朽化によりニーズに合わない。(不動産業)
- 人件費の増大。公共工事の減少が見込まれ、人員の余剰が心配される。(サービス業)
- 70歳以上で元気な高齢者が少なくなっている。丘陵地の店舗は車利用が重要であるが運転をやめる高齢者が増えている。(サービス業)
- 人員の流出。(サービス業)

《悪化要因》

- 得意先より納価引下げ要求。(小売業)
- 急激な円安による仕入値の高騰。(小売業)
- 低価格な商品が多く。消費者はそちらのみ見ている。(卸売業)
- 軽自動車の市場が縮小傾向にある。(卸売業)
- 少子高齢化、若者の車離れの傾向が進んでいる。(卸売業)
- ハイテク育成対策が不十分。(卸売業)
- 公共工事・民間工事の減少。(卸売業)
- 近隣企業の移転に伴う客数減少。競合店出店に伴う売上減少。(飲食業)
- 団塊世代の高齢化。(飲食業)
- コンビニの増加。職人が都内に出向しているのか少ない感じがする。(飲食業)
- 立川・稲城等の周辺地域に新規商業施設が開店している。書籍のニーズがネットにより減少している。(小売業)
- 天候不順によりお客の動向が読みにくい。(小売業)
- 通販業界における価格競争の激化。(小売業)
- 円安による仕入値の高騰。(小売業)
- メーカーの弱体化。(小売業)
- 主要顧客である高齢者の消費鈍化。取引先の事業縮小による売上減少。(小売業)
- 個人消費の低下。客単価の低下。(小売業)
- 個人消費の低迷。若者の貧困。企業の利益が国内の投資や賃上げに還元されてない。多摩格差。(小売業)
- 価格競争の激化。(小売業)
- 業界でのサービス競争が激しく、現場スタッフ(下請企業)の負担が年々大きくなってきている。(運送業)